

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成27年4月16日 (2015.4.16)

【公表番号】特表2013-540683(P2013-540683A)

【公表日】平成25年11月7日 (2013.11.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-061

【出願番号】特願2013-529227(P2013-529227)

【国際特許分類】

C 0 1 B 31/02 (2006.01)

C 0 3 C 25/10 (2006.01)

C 0 3 C 17/22 (2006.01)

【 F I 】

C 0 1 B 31/02 1 0 1 F

C 0 3 C 25/02 N

C 0 3 C 17/22 Z

【手続補正書】

【提出日】平成27年2月23日 (2015.2.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 9 】

ある実施形態では、ガラス基材上に成長したカーボン・ナノチューブを、化学的又は機械的に基材に付着することができる。本発明方法によってガラス基材上に成長したカーボン・ナノチューブ（すなわち、導入されたカーボン・ナノチューブ）は、予め合成されたカーボン・ナノチューブを単純なファンデルワールス吸着相互作用（van der Waals physisorption interaction）によって適所に保つよりも強力に付着される。したがって、その上にカーボン・ナノチューブを成長させた本発明のガラス基材は、予め形成したカーボン・ナノチューブ（例えば、カーボン・ナノチューブの溶液又は懸濁液（suspension）から）をその上に付着させたガラス基材とは区別される。さらに、ガラス基材上に直接カーボン・ナノチューブを成長させることによって、個別のカーボン・ナノチューブとして実質的に切り離された状態でカーボン・ナノチューブを得ることができる。ある実施形態では、ガラス基材に直接的にカーボン・ナノチューブを結合できる。他の実施形態では、カーボン・ナノチューブの合成を媒介するために用いられる触媒物質及び／又はガラス基材上に析出させた非触媒物質を介して、ガラス基材に間接的にカーボン・ナノチューブを結合できる。